

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2002年 7月26日

出 願 番 号

Application Number:

特願2002-218050

[ST.10/C]:

[JP2002-218050]

出 願 人

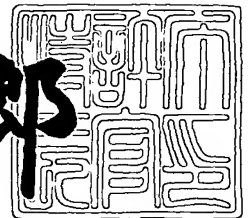
Applicant(s):

株式会社デンソー

2003年 6月18日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

太田信一郎



出証番号 出証特2003-3047378

【書類名】 特許願

【整理番号】 ND020520

【提出日】 平成14年 7月26日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 F02M 51/00

【発明の名称】 燃料供給装置

【請求項の数】 13

【発明者】

【住所又は居所】 愛知県刈谷市昭和町 1 丁目 1 番地 株式会社デンソー内

【氏名】 岡嶋 正博

【発明者】

【住所又は居所】 愛知県刈谷市昭和町 1 丁目 1 番地 株式会社デンソー内

【氏名】 柴田 仁

【特許出願人】

【識別番号】 000004260

【氏名又は名称】 株式会社デンソー

【代理人】

【識別番号】 100093779

【弁理士】

【氏名又は名称】 服部 雅紀

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 007744

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9004765

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 燃料供給装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 内燃機関のシリンダヘッドに燃料噴射口側端部が挿入され、前記内燃機関の気筒に燃料を噴射する燃料噴射装置と、

前記燃料噴射装置の燃料流入口側端部が挿入され、前記燃料噴射装置に燃料を搬送する燃料搬送管と、

前記燃料搬送管と前記シリンダヘッドとが互いに離間することを制限する制限手段と、

前記燃料搬送管と前記燃料噴射装置との間に挟持されて前記制限手段の制限力を受け、その制限力に対する反力により、前記燃料搬送管を前記シリンダヘッドとは反対側に押圧し且つ前記燃料噴射装置を前記シリンダヘッド側に押圧する押圧部材と、

を備えることを特徴とする燃料供給装置。

【請求項 2】 前記押圧部材は、前記燃料流入口側端部が挿入される前記燃料搬送管の燃料供給口と前記燃料噴射口側端部とで挟持されることを特徴とする請求項 1 に記載の燃料供給装置。

【請求項 3】 前記押圧部材及び前記燃料供給口の一方に第一突部が設けられ、前記押圧部材及び前記燃料供給口の他方に前記第一突部と嵌合する第一凹み部が設けられることを特徴とする請求項 2 に記載の燃料供給装置。

【請求項 4】 前記押圧部材及び前記燃料噴射口側端部の一方に第二突部が設けられ、前記押圧部材及び前記燃料噴射口側端部の他方に前記第二突部と嵌合する第二凹み部が設けられることを特徴とする請求項 2 又は 3 に記載の燃料供給装置。

【請求項 5】 前記第二突部及び前記第二凹み部の一方に前記第二突部とは突出方向の異なる第三突部が設けられ、前記第二突部及び前記第二凹み部の他方に前記第三突部と嵌合する第三凹み部が設けられることを特徴とする請求項 4 に記載の燃料供給装置。

【請求項 6】 前記押圧部材は、前記燃料噴射装置の外周側領域のうち周方

向 1 周末滴の領域を囲む形状に形成されることを特徴とする請求項 1 ～ 5 のいずれか一項に記載の燃料供給装置。

【請求項 7】 前記押圧部材の少なくとも一部分は、弾性変形により前記反力を生じる弾性部を形成することを特徴とする請求項 1 ～ 6 のいずれか一項に記載の燃料供給装置。

【請求項 8】 前記弾性部は、前記弾性変形を促進する切り欠きを有することを特徴とする請求項 7 に記載の燃料供給装置。

【請求項 9】 前記弾性部は、前記弾性変形を促進する断面アーチ状の曲部を有することを特徴とする請求項 7 又は 8 に記載の燃料供給装置。

【請求項 1 0】 前記燃料噴射装置は、中心軸からの径が変化する変化部を外周側に有し、

前記押圧部材は、前記燃料噴射装置側の被挟持箇所前記変化部に当接することを特徴とする請求項 1 ～ 9 のいずれか一項に記載の燃料供給装置。

【請求項 1 1】 前記燃料噴射装置において弁部材を駆動するための磁気回路が形成されない部位を前記押圧部材は押圧することを特徴とする請求項 1 ～ 1 0 のいずれか一項に記載の燃料供給装置。

【請求項 1 2】 前記制限手段は、前記シリンダヘッドから前記燃料搬送管側に延出するように設けられる支持部材と、前記支持部材に前記燃料搬送管を締結する螺子部材とを有することを特徴とする請求項 1 ～ 1 1 のいずれか一項に記載の燃料供給装置。

【請求項 1 3】 請求項 1 ～ 1 2 のいずれか一項に記載の燃料供給装置に備え付けられて前記押圧部材として機能することを特徴とする組付用部品。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【発明の属する技術分野】

本発明は、燃料供給装置に関する。

【 0 0 0 2 】

【従来の技術】

従来、燃料搬送管で搬送された燃料を燃料噴射装置（以下、インジェクタとい

う)により内燃機関(以下、エンジンという)の気筒に噴射する燃料供給装置が知られている。この燃料供給装置では、インジェクタの燃料流入口側端部と燃料噴射口側端部とを燃料搬送管とエンジンのシリンダヘッドとにそれぞれ挿入して、燃料供給装置をシリンダヘッドに組付けている。

特開平 1 1 - 2 8 7 1 6 8 号公報に開示される装置では、燃料搬送管に設けたステーと共に押圧部材をシリンダヘッドに固定し、その押圧部材によりインジェクタをシリンダヘッドに押圧して固定している。

【 0 0 0 3 】

【発明が解決しようとする課題】

特開平 1 1 - 2 8 7 1 6 8 号公報に開示の装置では、燃料搬送管とシリンダヘッドとの間において押圧部材をシリンダヘッドにボルト固定している。そのため、図 7 に示す如きシリンダヘッドの V バンク内に燃料供給装置を組付ける場合等においては、ボルト固定部の周辺にスペースを十分に確保できない。その場合、ボルトを締め付けることが困難となり、ボルトの軸力について所期の大きさが得られなくなる。上記公報に開示の装置では、押圧部材に板ばねを用い、ボルトの軸力により板ばねを弾性変形させてインジェクタを押す押圧力を得ているので、軸力の減少は押圧力の低下につながる。自由長の短い板ばねでは、押圧力を確保するためにばね定数を大きく設定しなければならないため、軸力の僅かな減少でも押圧力が大幅に低下してしまう。

【 0 0 0 4 】

本発明の目的は、エンジンのシリンダヘッドに容易に且つ堅固に組付けできる燃料供給装置を提供することにある。

また、本発明の他の目的は、エンジンのシリンダヘッドに燃料供給装置を容易に且つ堅固に組付けるのに好適な組付用部品を提供することにある。

【 0 0 0 5 】

【課題を解決するための手段】

本発明の請求項 1 に記載の燃料供給装置によると、インジェクタの燃料流入口側端部と燃料噴射口側端部とがそれぞれ挿入される燃料搬送管とエンジンのシリンダヘッドとは、制限手段により互いの離間を制限される。燃料搬送管とシリン

ダヘッドとの間に挟持されて制限手段の制限力を受ける押圧部材は、その制限力に対する反力により、燃料搬送管をシリンダヘッドとは反対側に押圧し且つインジェクタをシリンダヘッド側に押圧する。このような構成では、例えば螺子部材等を含む制限手段を操作容易な位置に設けて制限力を確保することで、その制限力に対する押圧部材の反力、すなわち押圧部材による燃料搬送管及びインジェクタの押圧力を確保することができる。したがって、燃料供給装置をシリンダヘッドに容易に且つ堅固に組付けることが可能である。

【 0 0 0 6 】

本発明の請求項 2 に記載の燃料供給装置によると、押圧部材は、インジェクタの燃料流入口側端部が挿入される燃料搬送管の燃料供給口とインジェクタの燃料噴射口側端部とで挟持される。これにより、燃料搬送管及びインジェクタを押圧する反力を確実に得ることができる。

【 0 0 0 7 】

本発明の請求項 3 に記載の燃料供給装置によると、押圧部材及び燃料搬送管の燃料供給口の一方に第一突部が設けられ、押圧部材及び燃料供給口の他方に第一突部と嵌合する第一凹み部が設けられる。これにより、押圧部材の正規位置へ配置が容易となる。

【 0 0 0 8 】

本発明の請求項 4 に記載の燃料供給装置によると、押圧部材及びインジェクタの燃料噴射口側端部の一方に第二突部が設けられ、押圧部材及び燃料噴射口側端部の他方に第二突部と嵌合する第二凹み部が設けられる。これにより、押圧部材の正規位置へ配置が容易となる。

【 0 0 0 9 】

本発明の請求項 5 に記載の燃料供給装置によると、第二突部及び第二凹み部の一方に第二突部とは突出方向の異なる第三突部が設けられ、第二突部及び第二凹み部の他方に第三突部と嵌合する第三凹み部が設けられる。これにより、押圧部材の脱落を確実に防止することができる。

【 0 0 1 0 】

本発明の請求項 6 に記載の燃料供給装置によると、押圧部材は、インジェクタ

の外周側領域のうち周方向 1 周未満の領域を囲む形状に形成される。これにより、例えばインジェクタを押圧部材の周方向両端縁部側から内周側に挿入するだけで、押圧部材をインジェクタの外周側に容易に配置することができる。

【 0 0 1 1 】

本発明の請求項 7 に記載の燃料供給装置によると、押圧部材の少なくとも一部分は、弾性変形により前記反力を生じる弾性部を形成する。この弾性部の弾性変形による反力（以下、弾性反力という）を利用することで、燃料搬送管及びインジェクタを押圧する押圧力を高めることができる。

【 0 0 1 2 】

本発明の請求項 8 に記載の燃料供給装置によると、弾性部は、弾性変形を促進する切り欠きを有する。これにより、弾性部の弾性係数を小さく設定して制限力の変化に対する弾性反力の変化量を小さく抑えつつ、弾性部の弾性変形量を大きくして弾性反力を増大することができる。

【 0 0 1 3 】

本発明の請求項 9 に記載の燃料供給装置によると、弾性部は、弾性変形を促進する断面アーチ状の曲部を有する。これにより、弾性部の弾性係数を小さく設定して制限力の変化に対する弾性反力の変化量を小さく抑えつつ、弾性部の弾性変形量を大きくして弾性反力を増大することができる。

【 0 0 1 4 】

本発明の請求項 1 0 に記載の燃料供給装置によると、インジェクタは、中心軸からの径が変化する変化部を外周側に有し、押圧部材は、インジェクタ側の被挟持箇所に変化部に当接する。これにより、変化部を押圧部材に押し付けるインジェクタの中心軸周りの回転力を、押圧部材から変化部に作用する反力により相殺できる。したがって、インジェクタを周方向において確実に位置決めできる。

【 0 0 1 5 】

本発明の請求項 1 1 に記載の燃料供給装置によると、インジェクタにおいて弁部材を駆動するための磁気回路が形成されない部位を押圧部材は押圧する。この構成によると、インジェクタにおいて磁気回路の形成部位が押圧部材で押圧されて噴射特性が変化することを回避できる。

【 0 0 1 6 】

本発明の請求項 1 2 に記載の燃料供給装置によると、制限手段は、シリンダヘッドから燃料搬送管側に延出するように設けられる支持部材と、その支持部材に燃料搬送管を締結する螺子部材とを有する。これにより、螺子部材の支持部材への締結箇所について、締結操作が比較的容易となる燃料搬送管の近傍位置に設定することができる。

【 0 0 1 7 】

本発明の請求項 1 3 に記載の組付用部品によると、請求項 1 ～ 1 2 のいずれか一項に記載の燃料供給装置に備え付けられて押圧部材として機能する。すなわち、請求項 1 3 に記載の組付用部品は、エンジンのシリンダヘッドに燃料供給装置を容易に且つ堅固に組付けるのに好適である。

【 0 0 1 8 】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態を示す複数の実施例を図面に基づいて説明する。

(第一実施例)

本発明の第一実施例による燃料供給装置を図 1 及び図 2 に示す。燃料供給装置 1 0 は、エンジンのシリンダヘッド 2 に組付けられている。燃料供給装置 1 0 は、燃料搬送管 2 0、インジェクタ 3 0、押圧部材 4 0 等を備えている。

【 0 0 1 9 】

燃料搬送管 2 0 は、燃料を搬送する搬送路 2 1 を形成する。燃料搬送管 2 0 は、インジェクタ 3 0 に燃料を供給する燃料供給口 2 2 を有している。燃料供給口 2 2 は、燃料搬送管 2 0 の外周側に突出する筒状に形成され、内孔を搬送路 2 1 に連通させている。シリンダヘッド 2 には燃料搬送管 2 0 側に向かって延出する支持部材 4 が一体に形成され、その支持部材 4 の延出側端部 4 a に燃料搬送管 2 0 がボルト 2 6 で締結されている。この締結により、燃料搬送管 2 0 とシリンダヘッド 2 とは相対変位不能に固定されて互いに離間することを制限され、その制限力がそれら要素 2 0、2 間に及ぼされている。ボルト 2 6 の頭部 2 6 a は、燃料搬送管 2 0 のシリンダヘッド 2 とは反対側から操作可能である。本実施例では、支持部材 4 と螺子部材たるボルト 2 6 とが制限手段を構成している。尚、支持

部材 4 については、シリンダヘッド 2 とは別体に形成したものをシリンダヘッド 2 に固定するようにしてもよい。

【 0 0 2 0 】

インジェクタ 3 0 の一端部 3 0 a には、燃料流入口 3 1 が設けられている。その燃料流入口側端部 3 0 a は燃料供給口 2 2 に同軸上に挿入され、軸方向両側に移動可能かつ中心軸 O 周りに回転可能である。燃料流入口側端部 3 0 a が燃料供給口 2 2 に挿入された状態で、燃料流入口 3 1 の内孔は燃料供給口 2 2 の内孔に連通し、燃料搬送管 2 0 内の燃料が燃料供給口 2 2 及び燃料流入口 3 1 を通じてインジェクタ 3 0 内の燃料通路 3 3 に流入する。燃料流入口側端部 3 0 a と燃料供給口 2 2 との間は O リング 3 5 でシールされている。

【 0 0 2 1 】

インジェクタ 3 0 の他端部 3 0 b には、燃料噴射口 3 4 が設けられている。その燃料噴射口側端部 3 0 b は、シリンダヘッド 2 の挿入口 6 に挿入されている。挿入口 6 は横断面が円形であり、開口部側からエンジンの気筒 8 に繋がる深部に向かうに従い二段階で縮径されている。燃料噴射口側端部 3 0 b には、燃料噴射口 3 4 よりも上流側にフランジ 3 6 が設けられている。フランジ 3 6 は、燃料噴射口側端部 3 0 b の外周側に突出形成され、厚肉の円環板状を呈している。挿入口 6 の二つの円環状段差面のうち開口部側の段差面 6 a に、フランジ 3 6 の下流側端面 3 6 a がガスケット 9 を介して当接している。ガスケット 9 は、燃料噴射口側端部 3 0 b と挿入口 6 との間をシールしている。フランジ 3 6 が段差面 6 a に当接した状態で燃料噴射口 3 4 は気筒 8 内に進入している。

【 0 0 2 2 】

電気駆動式のインジェクタ 3 0 は、図示しないコネクタからの供給電流に応じコイル 3 8 で形成した磁気回路により弁部材 3 9 を軸方向に往復駆動して、燃料噴射口 3 4 の内孔を開閉する。燃料噴射口 3 4 の内孔が開かれるときインジェクタ 3 0 は燃料通路 3 3 内の燃料を気筒 8 に噴射する。尚、インジェクタ 3 0 においてフランジ 3 6 は非磁性材で形成されて上記磁気回路を形成しないようになっている。

【 0 0 2 3 】

押圧部材 4 0 は、図 3 に示す組付用部品で構成されている。押圧部材 4 0 は例えば炭素工具鉄鋼材（S K 材）等で弾性変形可能に形成され、図 1 及び図 2 に示すようにインジェクタ 3 0 の外周側に同軸上に支持されている。具体的に押圧部材 4 0 は、インジェクタ 3 0 の外周側を周方向に 1 / 2 周強の長さで延びる U 字状の横断面を有している。押圧部材 4 0 には、複数の切り欠き 4 1 が軸方向（縦方向）に並ぶように形成されている。各切り欠き 4 1 は押圧部材 4 0 を径方向に貫通し、周方向の一方の端縁部 4 0 c 又は 4 0 d から他方の端縁部 4 0 d 又は 4 0 c まで至らない長さで延伸している。軸方向において隣接する切り欠き 4 1 同士は、互いに異なる端縁部 4 0 c, 4 0 d から延び始めるように形成されている。複数の切り欠き 4 1 により押圧部材 4 0 は軸方向の剛性が低くされ、軸方向に弾性変形容易となっている。すなわち切り欠き 4 1 は、押圧部材 4 0 の弾性係数を小さくして弾性変形を促進するものである。本実施例では、後述する燃料供給装置 1 0 の組付けに際し、弾性変形した押圧部材 4 0 の弾性反力が 2 0 0 N 以上となるようにばね力を設定している。このように押圧部材 4 0 はその全体で弾性部を形成している。

【 0 0 2 4 】

押圧部材 4 0 の軸方向の一端部 4 0 a には第一突部 4 2 が設けられている。第一突部 4 2 は押圧部材 4 0 の端部 4 0 a から軸方向に突出し、燃料供給口 2 2 の突出先端面に開口する第一凹み部 2 8 に嵌合している。一方、押圧部材 4 0 の軸方向の他端部 4 0 b には第二突部 4 3 が二つ設けられている。二つの第二突部 4 3 は共に押圧部材 4 0 の端部 4 0 b から軸方向に突出し、インジェクタ 3 0 においてフランジ 3 6 の上流側端面 3 6 b 及び側面 3 6 c に開口する二つの第二凹み部 3 7 にそれぞれ嵌合している。図 4 に示すように、各第二凹み部 3 7 の側面 3 6 c 側開口に向かい合う内壁面 3 7 a は平坦面形状に形成されている。インジェクタ 3 0 の中心軸 O から内壁面 3 7 a 上の各点までの径は周方向で変化しており、かかる内壁面 3 7 a が変化部を構成している。各第二突部 4 3 の内周面 4 3 a は平坦面形状に形成され、対応する第二凹み部 3 7 の内壁面 3 7 a にほぼ全面が当接している。尚、本実施例では、二つの第二凹み部 3 7 の内壁面 3 7 a がインジェクタ 3 0 の中心軸 O を挟んで平行な二面幅形態に形成され、また二つの第二

突部 4 3 の内周面 3 7 a が押圧部材 4 0 の中心軸 P を挟んで平行に形成されている。

【 0 0 2 5 】

次に、燃料供給装置 1 0 をシリンダヘッド 2 に組み付ける方法について説明する。

(1) インジェクタ 3 0 の外周側に図 3 の組付用部品を押圧部材 4 0 として配置し、押圧部材 4 0 の第二突部 4 3 をフランジ 3 6 の第二凹み部 3 7 に嵌合する。

【 0 0 2 6 】

(2) インジェクタ 3 0 の燃料流入口側端部 3 0 a を燃料供給口 2 2 に挿入すると共に、押圧部材 4 0 の第一突部 4 2 を燃料供給口 2 2 の第一凹み部 2 8 に嵌合する。これにより、燃料供給口 2 2 とフランジ 3 6 との間に押圧部材 4 0 が挟まれて位置決めされる。

(3) インジェクタ 3 0 の燃料噴射口側端部 3 0 b をシリンダヘッド 2 の挿入口 6 に挿入する。

【 0 0 2 7 】

(4) 燃料搬送管 2 0 をボルト 2 6 で支持部材 4 に締結しシリンダヘッド 2 に固定する。それにより、燃料搬送管 2 0 とシリンダヘッド 2 との間に働く制限力が、燃料供給口 2 2 とフランジ 3 6 とで挟まれた押圧部材 4 0 に伝達される。この伝達力を受けた押圧部材 4 0 は圧縮されて軸方向に弾性変形し、伝達力に対する弾性反力を軸方向両側の燃料供給口 2 2 とフランジ 3 6 とに及ぼす。このような弾性反力により燃料搬送管 2 0 をシリンダヘッド 2 とは反対側に押圧することで、押圧部材 4 0 は燃料搬送管 2 0 に固定される。また、弾性反力によりインジェクタ 3 0 のフランジ 3 6 をシリンダヘッド 2 側に押圧することで、押圧部材 4 0 はインジェクタ 3 0 をシリンダヘッド 2 に固定する。

【 0 0 2 8 】

以上説明した燃料供給装置 1 0 においてボルト 2 6 の頭部 2 6 a は、燃料搬送管 2 0 のシリンダヘッド 2 とは反対側から操作可能となっているので、図 7 に示す如きシリンダヘッドに装置 1 0 を組付ける場合でも上記 (4) でのねじ締め作業が容易となる。これにより、燃料搬送管 2 0 とシリンダヘッド 2 との間の制限

力を確実に得ることができるので、その制限力に対する押圧部材 4 0 の弾性反力、すなわち押圧部材 4 0 による燃料搬送管 2 0 及びインジェクタ 3 0 の押圧力を十分に確保できる。

【 0 0 2 9 】

また、燃料供給装置 1 0 の押圧部材 4 0 は、燃料供給口 2 2 とインジェクタ端部 3 0 b のフランジ 3 6 とで挟持され、その挟持方向である軸方向に弾性変形するので、燃料搬送管 2 0 及びインジェクタ 3 0 を押す弾性反力を確実に得ることができる。さらに押圧部材 4 0 については、複数の切り欠き 4 1 により弾性係数が小さくされているので、制限力の変化に対する弾性反力の変化量を小さく抑えつつ、弾性変形量を大きくして弾性反力ひいては上記押圧力を増大することができる。

【 0 0 3 0 】

またさらに押圧部材 4 0 は、上述した構成の採用により、インジェクタ 3 0 の外周側領域のうち周方向 1 周未満の領域を囲む形状となっている。したがって、上記 (1) においてインジェクタ 3 0 を押圧部材 4 0 の端縁部 4 0 c, 4 0 d 側から内周側に挿入するだけで、押圧部材 4 0 をインジェクタ 3 0 の外周側に容易に配置できる。しかも押圧部材 4 0 は、上記 (1) において第二突部 4 3 を第二凹み部 3 7 に嵌合し、上記 (2) において第一突部 4 2 を第一凹み部 2 8 に嵌合するだけで、正規の位置に容易に配置可能である。

このように燃料供給装置 1 0 は、シリンダヘッド 2 に対し容易に且つ堅固に組付けることができる。

【 0 0 3 1 】

加えて燃料供給装置 1 0 では、インジェクタ 3 0 の第二凹み部 3 7 に押圧部材 4 0 の第二突部 4 3 が嵌合し、その嵌合状態で第二凹み部 3 7 の変化部たる内壁面 3 7 a に第二突部 4 3 の内周面 4 3 a が当接している。そのため、内壁面 3 7 a を内周面 4 3 a に押し付けるインジェクタ 3 0 の中心軸 O 周りの回転力が、内周面 4 3 a から内壁面 3 7 a に働く反力で相殺される。この相殺作用により、インジェクタ 3 0 の周方向両側への回転が阻止されるので、インジェクタ 3 0 を周方向において確実に位置決めできる。

しかも燃料供給装置 1 0 では、押圧部材 4 0 によるインジェクタ 3 0 の押圧箇所を磁気回路の形成されないフランジ 3 6 に設定しているので、押圧部材 4 0 の押圧により磁気回路が乱されて弁部材 3 9 のリフト量が低下し噴射特性が変化することを回避できる。

【 0 0 3 2 】

(第二実施例)

本発明の第二実施例による燃料供給装置では、図 3 に示す組付用部品の代わりに図 5 に示す組付用部品を押圧部材 4 0 として用いている。尚、以下の説明において第一実施例と実質的に同一の構成部分には同一符号を付す。

【 0 0 3 3 】

図 5 の組付用部品で構成される押圧部材 4 0 では、第一突部 4 2 の配設端部 4 0 a と第二突部 4 3 の配設端部 4 0 b のみが第一実施例と同様な U 字状の横断面を有し、それら端部 4 0 a, 4 0 b の間を複数のロッド 4 6 が中心軸 P に概ね平行に延伸している。これにより、各ロッド 4 6 はインジェクタ 3 0 の外周側において周方向に互いに間隔をあけて配列され、押圧部材 4 0 は全体としてインジェクタ 3 0 外周の周方向 1 周未満の領域を囲むこととなる。各ロッド 4 6 の軸方向の中間部分は、断面アーチ状の曲部 4 7 を形成している。本実施例の曲部 4 7 は、押圧部材 4 0 の径方向外側に向かって滑らかに湾曲するアーチ状断面を有する。各ロッド 4 6 の曲部 4 7 により押圧部材 4 0 は軸方向の剛性が低くされ、軸方向に弾性変形容易となっている。すなわち曲部 4 7 は、押圧部材 4 0 の弾性係数を小さくして弾性変形を促進するものである。第二実施例の押圧部材 4 0 もその全体で弾性部を形成している。

【 0 0 3 4 】

このような第二実施例による押圧部材 4 0 を用いても、第一実施例の場合と同様の原理により要素 2 0, 2 間の制限力を確実に確保して、押圧部材 4 0 を挟む燃料供給口 2 2 とフランジ 3 6 とに押圧力を充分且つ確実に作用させることができる。さらに第二実施例の押圧部材 4 0 は複数の曲部 4 7 により弾性係数が小さくされているので、制限力の変化に対する弾性反力の変化量を小さく抑えつつ、弾性変形量を大きくして上記押圧力の増大を図ることができる。またさらに押圧

部材 4 0 は、インジェクタ 3 0 の外周側領域のうち周方向 1 周未満の領域を囲む形状となっているので、第一実施例の場合と同様にインジェクタ 3 0 の外周側への配置が容易である。

【 0 0 3 5 】

(第三実施例)

本発明の第三実施例による燃料供給装置のインジェクタ及び押圧部材を図 6 に示す。尚、以下の説明において第一実施例と実質的に同一の構成部分には同一符号を付す。

【 0 0 3 6 】

第三実施例の燃料供給装置において、インジェクタ 3 0 のフランジ 3 6 の各第二凹み部 3 7 には、その内壁面 3 7 a から径方向外側に突出する第三突部 5 0 が設けられている。また、押圧部材 4 0 の軸方向に突出する各第二突部 4 3 には、その内周面 4 3 a に開口する第三凹み部 5 2 が設けられている。図 6 に示すように各第三突部 5 0 は、対応する第三凹み部 5 2 に嵌合している。このような第三実施例によると、第二突部 4 3 と第三突部 5 0 とは互いに突出方向が異なっており、かかる第二突部 4 3 と第三突部 5 0 とにそれぞれ第二凹み部 3 7 と第三凹み部 5 2 とが嵌合しているので、押圧部材 4 0 の脱落が確実に防止される。尚、各第二突部 4 3 の内周面 4 3 a のうち押圧部材 4 0 の端縁部 4 0 c 又は 4 0 d につながる端縁部 4 3 a' を図 6 に示すような R 形状（湾曲形状）に形成することが望ましい。これにより、押圧部材 4 0 の配置のためにインジェクタ 3 0 を押圧部材 4 0 の端縁部 4 0 c、4 0 d 側から内周側に挿入するとき、その挿入性が向上する。

【 0 0 3 7 】

以上説明した複数の実施例では、燃料搬送管 2 0 の燃料供給口 2 2 とインジェクタ 3 0 の燃料噴射口側端部 3 0 b とで押圧部材 4 0 を挟持させていたが、押圧部材については、燃料搬送管とインジェクタとの間に挟持されるのであれば適宜な配設形態を採用することができる。

【 0 0 3 8 】

さらに上記複数の実施例では、弾性変形を促進する切り欠き 4 1 又は曲部 4 7

を押圧部材 4 0 に設けて、所謂ばね状に押圧部材 4 0 を構成していた。これに対し、押圧部材に切り欠き及び曲部を共に設けるようにしてもよいし、弾性変形容易なゴム等で押圧部材を形成して押圧部材に切り欠き及び曲部を設けないようにしてもよい。

【 0 0 3 9 】

さらに上記第二実施例では、押圧部材 4 0 の曲部 4 7 が滑らかに湾曲する断面アーチ状に形成されていたが、押圧部材の曲部については例えば頂点を有するように屈曲する断面アーチ状に形成してもよい。またさらに上記第二実施例では、押圧部材 4 0 のロッド 4 6 に曲部 4 7 が局所的に形成されていたが、押圧部材の筒状乃至は板状部分をアーチ状断面で周方向に延びる溝形態に曲部を形成してもよい。

【 0 0 4 0 】

さらに上記複数の実施例では、インジェクタ 3 0 の変化部としての内壁面 3 7 a が周方向の二箇所に設けられていたが、変化部を一つ又は三つ以上設けてもよい。またさらに上記複数の実施例では、インジェクタ 3 0 の中心軸 O からの径を周方向で変化させる平坦面で変化部が実現されていたが、インジェクタの中心軸からの径を径方向で変化させる平坦面で変化部を実現してもよい。またその他、インジェクタの中心軸からの径を周方向で変化させる楕円曲面等の湾曲面で変化部を実現してもよい。

【 0 0 4 1 】

さらに上記複数の実施例では、シリンダヘッド 2 に一体に設けた支持部材 4 と、その支持部材 4 に燃料搬送管 2 0 を締結する螺子部材としてのボルト 2 6 で制限手段を構成していた。これに対し、シリンダヘッドの搭載される車両に固定されて、シリンダヘッド側に燃料搬送管を押圧する若しくは引張ってシリンダヘッド及び燃料搬送管の相互離間を制限する制限手段を採用してもよい。その場合、制限手段の押圧力乃至は引張力が、燃料搬送管とシリンダヘッドとに車両を介して間接的に及ぼされる制限力である。またさらに上記複数の実施例では、支持部材 4 とボルト 2 6 とからなる制限手段により燃料搬送管 2 0 とシリンダヘッド 2 とを相対変位不能に固定することで、それら要素 2 0, 2 0 の相互離間を制限し

ていた。これに対し、燃料搬送管とシリンダヘッドとを弾性結合する等して微小範囲での相対変位可能に相互離間を制限する制限手段であってもよい。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の第一実施例による燃料供給装置を示す一部切り欠き正面図である。

【図 2】

図 1 に示す燃料供給装置のインジェクタ及び押圧部材を示す断面図である。

【図 3】

図 1 に示す燃料供給装置の押圧部材として用いられる組付用部品を示す斜視図である。

【図 4】

図 1 の IV-IV 断面図に相当する模式図である。

【図 5】

本発明の第二実施例による燃料供給装置の押圧部材として用いられる組付用部品を示す斜視図である。

【図 6】

本発明の第三実施例による燃料供給装置のインジェクタ及び押圧部材を示す模式図であって、図 4 に対応する図である。

【図 7】

シリンダヘッドへの燃料供給装置の組付例を示す模式図である。

【符号の説明】

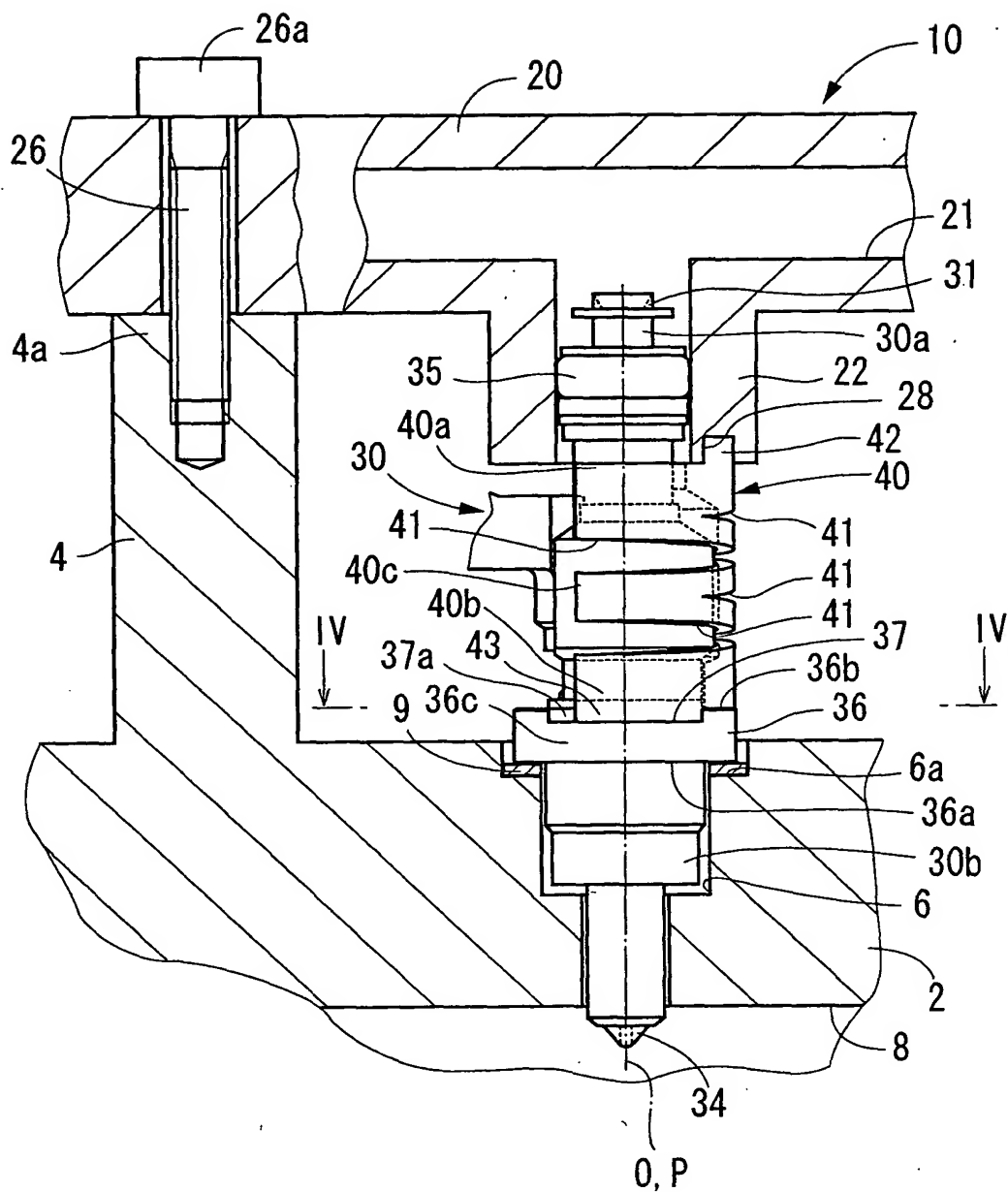
- 2 シリンダヘッド
- 4 支持部材（制限手段）
- 6 挿入口
- 8 気筒
- 10 燃料供給装置
- 20 燃料搬送管
- 22 燃料供給口
- 26 ボルト（制限手段）

- 2 8 第一凹み部
- 3 0 インジェクタ (燃料噴射装置)
- 3 0 a 燃料流入口側端部
- 3 0 b 燃料噴射口側端部
- 3 1 燃料流入口
- 3 4 燃料噴射口
- 3 6 フランジ
- 3 7 第二凹み部
- 3 7 a 内壁面 (変化部)
- 3 9 弁部材
- 4 0 押圧部材
- 4 1 切り欠き
- 4 2 第一突部
- 4 3 第二突部
- 4 3 a 内周面
- 4 6 ロッド
- 4 7 曲部
- 5 0 第三突部
- 5 2 第三凹み部
- インジェクタの中心軸
- P 押圧部材の中心軸

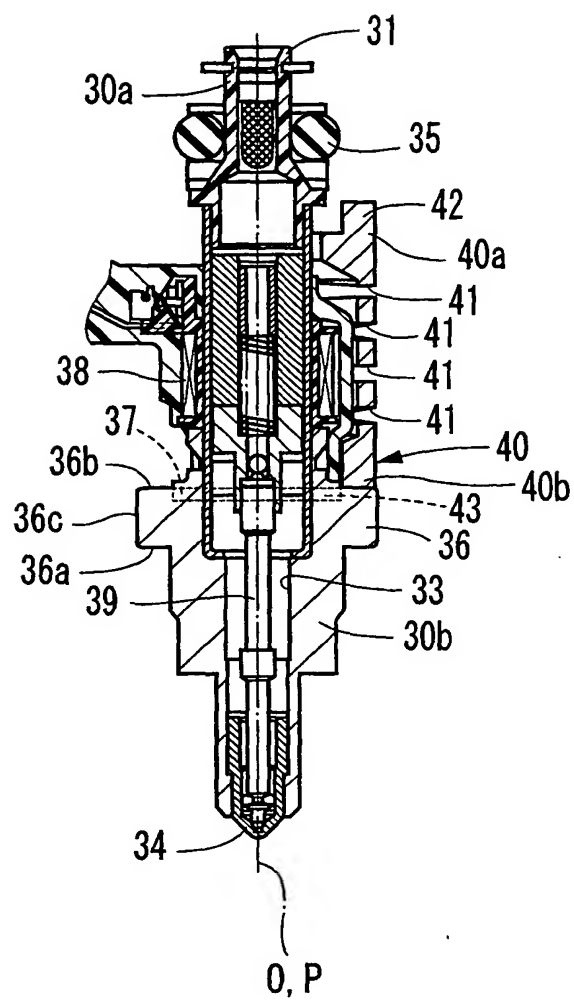
【書類名】

図面

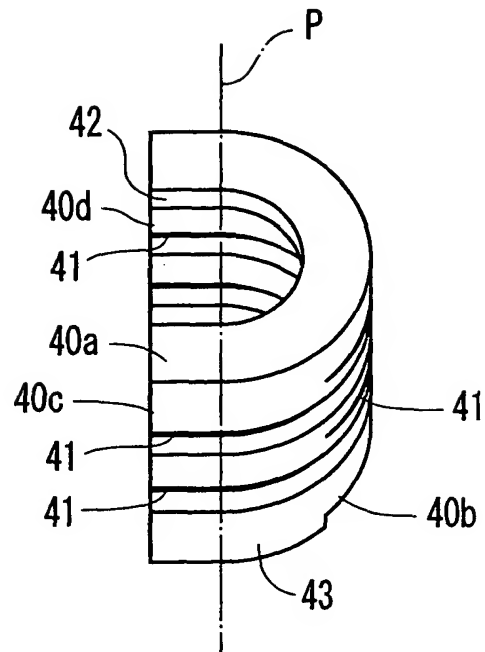
【図 1】



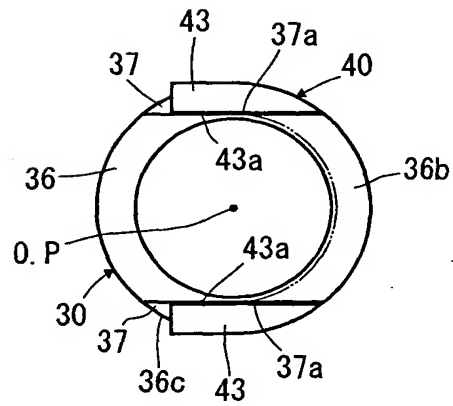
【図 2】



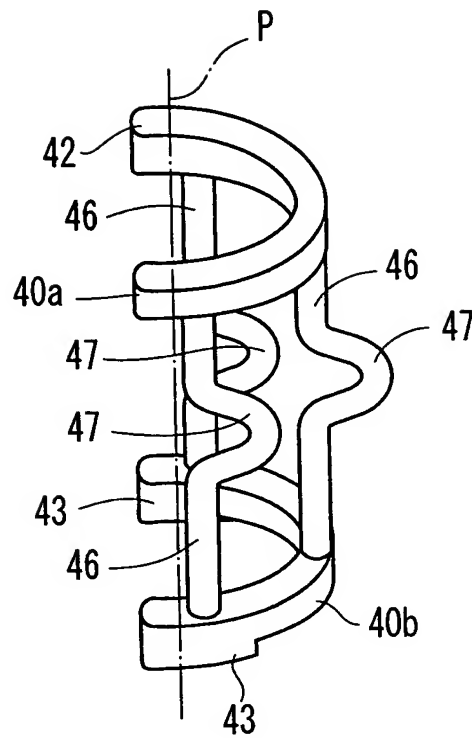
【図 3】



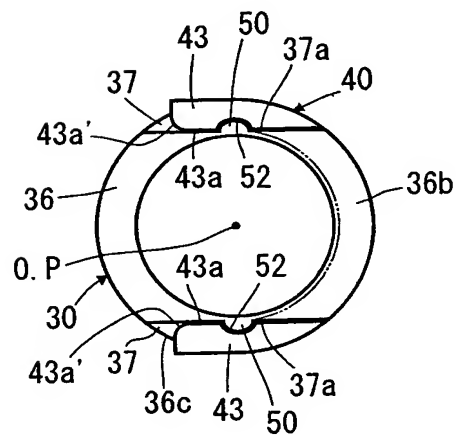
【図 4】



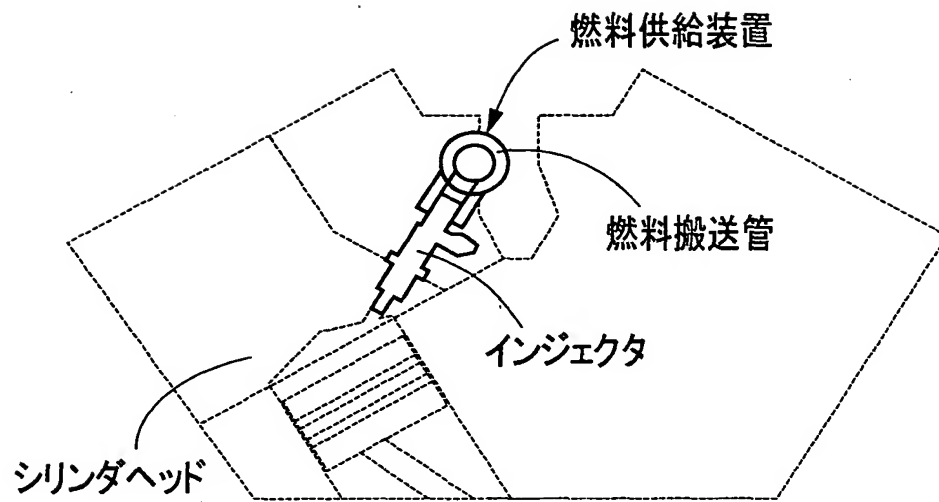
【図 5】



【図 6】



【図 7】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 エンジンのシリンダヘッドに容易に且つ堅固に組付けできる燃料供給装置を提供する。

【解決手段】 燃料噴射装置 3 0 の燃料流入口側端部 3 0 a と燃料噴射口側端部 3 0 b とがそれぞれ挿入される燃料搬送管 2 0 とエンジンのシリンダヘッド 2 とは、制限手段 4 , 2 6 により互いの離間を制限される。燃料搬送管 2 0 とシリンダヘッド 2 との間に挟持されて制限手段 4 , 2 6 の制限力を受ける押圧部材 4 0 は、その制限力に対する反力により、燃料搬送管 2 0 をシリンダヘッド 2 とは反対側に押圧し且つ燃料噴射装置 3 0 をシリンダヘッド 2 側に押圧する。

【選択図】 図 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000004260]

1. 変更年月日	1996年10月 8日
[変更理由]	名称変更
住 所	愛知県刈谷市昭和町1丁目1番地
氏 名	株式会社デンソー